礫陵新聞

発行所
福岡県若松市小石
若松高等学校
新聞部
発行人 大村文男
編集人 西尾守正
印刷所 西日本新聞社

森本校長表彰さる

三十余年間の功労顯著

〝教師は光栄ある天職〟校長談

文化の日である11日教育委員会発足の記念すべき日でもある十一月三日、本校校長森本鉄之助氏は現在まで教育界專心身を投ずること三十四年その功労顯著をもつて同委員会から表彰された。表彰は同委員会設置以来毎年行われているもので今回の表彰式は社会教育などの文化事業に貢献した者、その他の教員およそ七十名とともに県庁県会議事堂で教育委員長あいさつ、県知事、県議会長祝辞などについで本校校長が受賞者を代表して受賞することによつて閉幕した。

森本校長談　今回の表彰は全く父兄や教職員の皆様のお陰によるもので自分としては何も特別に教育のために立派なことを尽したとは思つていません。しかしこの三十幾年の体験の教育というものが如何に困難であるかということを感じましたが本当に生甲斐のある仕事かということなどが私を少なからず変えさせ今日に至らしめたかと思います。そして教職にあるということは物質的には恵まれないが、本当に光栄ある天職だということが分つて表彰された以外に何か一物を得た気持で喜んでいます。

大学入試要領発表さる

進学適性検査受験願書受付は九月十日―十月十日まで受験者は受験票に写真（出願前一年以内に写したもの）一枚、受験料百五拾円と共に学校長に提出のこと

○進学適性検査施行期日
昭和二十六年十二月十六日

○入学試験について
△一期　願書受付 一月二十一日より二月十五日まで
△試験　三月三日より
△発表　三月二十四日まで
△二期　願書受付は二月五日より三月三日まで
△試験　三月二十三日より
△発表　四月十二日まで

新生徒会生まる

委員長に浜崎浩己君（二年）副に厚田君、石原さん

上から浜崎、石原、原田の三君

前委員長家令君をはじめ副委員長の任期満了のため新委員長選挙が十月三十一日に行われた。委員長候補には二年の浜崎君、森本君の二名で、副委員長候補には二年の石原さん、大庭さんの二名であつた。投票日数日前より各候補者の推薦者は応援演説を筆頭に選挙戦を花々しく展開した。委員長、副委員長とも予断は許さず票は大きく割れるものと予想された。開票の結果委員長は浜崎君が八六八票で副委員長は石原さんが六四七票でそれぞれ当選した。一年厚田君は男子副委員長に無競争で当選した。一年厚田君と共に文化祭当日新任の挨拶を兼ねて希望をのべたなおこの席において前委員長家令君は退任の挨拶をのべ一切の引継ぎを行つた。

新委員長談　今回の選挙の結果前委員長より一切の引渡しを受けましたが、私自身どのようにしたらよいのか迷つております。けれども選ばれた以上自分の最大の力をこの仕事に打込みたいと考へています。学校の生徒会というものは三角錐の如きものであります。下部がしつかりしていなければ上部はぐらつき全体がまとまりません。結局生徒会を良くするも悪くするも皆さんの力であります。どうぞ微力な私達に協力して下さい

前委員長談　生徒会の発展は皆さん一人一人の盛り上る力で実現されます。皆さんの協力が委員長をどんなに助けることになるかをお考へ下さい。新委員長の御発展をお祈りして皆様の御協力を重ねてお願いします。

地理学会研究論文にパス

発表会に上京の瓜生教官

日本地理学界で昭和二十六年度の研究論文選定結果がこのほど発表され福岡県下では本校瓜生教官ほか二名がその選に入つた。

その選定の結果、パスした七十人が全国より集まり、去る十一月二十四日より三日間にわたり、日本地理学界学術大会が東京において行なわれ、それぞれ入選者の研究発表が行なわれた。瓜生教官は『洞海湾沿岸の工業』と題して、工業の分布の特色、金属工業等に関してはまだ初歩の段階にある事や、鉄工業の歴史等郷土に関する多大な研究が発表された。尚瓜生教官は今回の学術大会に関して『驚ろいた事には学者が大部分をしめており、研究発表に対しすぐ後から次へ次へと質問がなされ、新らしい問題がとりあつかわれ自分の分までの思想等修積される点が多い事等を感じました。これを機会に世界に動いている東京の新らしい空気を吸ひまた、世界の動きの中で東京が動いている事を精切に感じました』と語つた。

高校入試に二提案衝突

注目される今後の成行

今年も高校進学方法の問題が起り都教育委員会の諮問機関、公立高校進学対策協議会が十月三日から十一月二日まで七回にわたり審議され、審議の中心となつている某高校M教諭の『教育の平等』という試案と『進学の自由』の建前を採る都教育庁玉井学務課長試案が真向から対立、明年度の高校進学制度の成行きが注目されているM教諭試案は『教育は平等』という立場から各学区ごとに中学校三年在学者全員にアチーヴメント・テストを行いその結果と内申書で選抜管理委員会が合格者を決定これを居住地中心に各高校に割当てるという方法を採用する方法で現在この案に強力な代案がないため意見がまとまりにくい現状にある

これに対して玉井課長試案は志願自身、学校を選ぶことができるのが進学の自由であるという立場から中学生の受験勉強強化は当然で、知的優勝劣敗の原則に従つて入学を決定すべきでM試案は学生の配給制度だといつている。

土産話はテレビ技術

川上教官上京す

先月七日からテレビジョンと学校放送の研究のため、八日間の日程で上京されNHK技術研究所と科学博物館を見学された川上教官はそれについての感想を次のように語られた。

『地方と違つて勉強する意欲にかられているものは博物館など大いに利用できて充分な研究ができるその点からいえば地方の者は中央と学力差ができるからそれを力ーするだけのものを書物から読み取らなければならない。テレビジョンについては小倉にNHKが二十九年度にその設備を完備するようになつており僕達が実際に使用できるようになるにはそれ以後で価格なども相当に高いがテレビジョンを見ているとラジオなどお面白くなくて聞いておられない』

高校新聞記者研究会開かる

毎日新聞社、門司東高校共催の関門北九州高校新聞記者研究会は十一月十八日毎日ホールで開かれ十八校がこれに参加した。始めに三人の講師よりヒューマニズムの問題の新聞の法的意義、学校新聞の使命など大変参考になる講演があつた後、各校記者の懇談がありそれで宗教による精神面のみの世界恒久平和確立もむつかしい。よく『スイス式の平和を望む』というが日本はスイスと国情が違う。スイス式の平和主義も二十世紀後半にしては遅い。近隣諸国の紛争をどうして默然とそしらぬ顔でみていられよう。日本という国自身そのような苦しい立場にあるのである。それで戦争の原因を科学的に探究これを回避する事こそ唯一の戦争放棄の方法である。

われわれ学生は徒らな精神病的行動を起すだけの力があるなら、厳正な批判と科学的精神をもつて少しでも人類の幸福のために尽すべきである。

進適は期日繰上

大学受験に際して行なわれる進学適性検査は毎年一月、各校とも戸畑の九州工大で行われていたが、今回は期日も相当に短縮され十二月十五日（日）各自学校で行われるように決定した。

土肥富栄氏

教壇上で殉職

元若松中学校校長土肥富栄氏は去る十一月二十六日、教壇上で脳出血のため殉職された。先生は大正六年広島高師を卒業され、和歌山県田辺中学教員となり、滋賀県虎姫中学、呉市中学、福岡県櫛手中学と教頭をつづけられ、浮羽女学校校長、若松中学校校長を昭和廿一年に栄転し東筑中学校長、同

第一回

校内討論会お知らせ

来る十九日第一回校内討論会を開催する予定であります。講和を迎えたわれわれにとつては対内的にも、対外的にもより多くの論題を抱き諸君からの絶大なる希望によつて左記の要領で行ないます。

一、期　日　十二月十九日（水曜）
一、人　員　各組一人（一テイーム五人）
一、試合要領　トーナメント式
一、草論発表　十五分
一、討　論　テイーム持時間六十分
一、論　題　一般募集より五日まで
一、送　先　弁論部員宛

なお三年生は受験のため一応今回は不参加にする予定でありますから、最も必要だと思われる問題を御応募下さい。右御知らせまで（弁論部）

論説

平和論議と学生の態度

戦争、敗戦、復興と複雑な時代の波にもまれて幾有余、ここに講和条約も結ばれて一応は落ちついたようであるが、問題はこれからだ。現在日本国憲法には戦争放棄が唱えられてある。がそれは成文上の約束で果して〝平和〟になり得るだろうか。それがいかに国民の心を不安定にしているか現実を眺めればよく分る事だ。軍備を撤廃し他国民への信頼のみで自国の安全と平和を守ろうとする方法で恒久平和がやつて来るだろうか。われわれはここで熟考し、過去の反省とあくまでも冷静な態度で現実を批判する精神を養う必要がある。かつてわれわれ学生は封建制時の下、唯上からの圧迫によつて全く批判の芽を出す事も出来ず、盲目的に服従して来た。が今は違う。民主々義時代だ。悲しいかなこれは国民の手でかち得たものでない故ともすれば崩れがちだ。問題はここなのである。今後時代の波を左右し、文化国家の建設と民主化という最大事業を成すか否かそれは皆現代の学生の双肩にかかつているのである。感情の変化の多い正義の別を知つていて知らぬような、同時に何事にも屈しない正義感の強い者、それが青年なのだ。先日の京大生の天皇への騒乱等ややゆきすぎの感が大いに有るこのような事件も諸兄姉の正しい批判をもつてすればいかに無謀な手段であつたかおわかりになれるだろう。学生としての本分は何かという事を考え直す事だ。一時的な興奮をし易い、この時期において彼らはその興奮を何故良い方に（例えば科学方面にも）向けないのだろう。世界平和を論ずるばかりで実際の行動が非合法では何にもならない。それでまず人類の精神面から考えて全人類が平和思想を持つ事が第一だという愛の宗教であるキリスト教を普及しようという運動も盛んである。なる程それもいい。しかし又これだけでも不充分だ、人間の理念は不変ではないし又思想も統一も困難だから。それで宗教による精神面のみの世界恒久平和確立もむつかしい。よく『スイス式の平和を望む』というが日本はスイスと国情が違う。

時事解説

反響を呼ぶ京大事件

全世界の注視を浴びた講和条約ならびに安全保障条約は衆参両院共に多数をもつて承認されたが天皇も関西放行の途上奈良において署名された。しかしこれは当然予想されていたことが行われただけであつてそれよりも世間を驚かせたものは批准承認に先だつ十二日あの京大事件の起つたことであろう陛下京大御視察を午後に控えた同日朝京大同学会で五項目に亘る公開質問状を提出し拒否されたが陛下御到着の際陛下の御車を囲んで人垣を作り〝学生の平和を守れ〟等のプラカードをうち立て労働歌を歌つた陛下は予定の時間より約十五分遅れて出発されたが別に支障はさいなかつた様である。しかしこの事件は各界に相当の反響を呼び、京大当局も懲罰委員会を設けて確かに学生として行き過ぎと思われるいわゆる悪質学生の退校その他の処分に大童になつている。朝日新聞の某欄には良識ある学生が今だに天皇を対照として解放せよだの天皇罷免論を叫ぶだの公開質問状を提出しようとしていることは単に一国の象徴になられた天皇の位置をいかに侮視しているかということが分つてあまりにも愚であるとあつたがもち論これは学生幹部が共産党の指令に基いて行動したのであろうから一概に学生をそうとはいえまい。さる欧州特派員が〝パリの学生活動は日本と大部分変る所はないが学園内の露骨な運動は見られない。〟と風刺めいて伝えて来たのにも注目すべきであろう。またかくのごとき問題は今度の例でもわかる様に先々のことも考えて一応大きな問題として中央で論ぜられ結論づけられるべきである

先に講和ならびに安保両条約について少々触れたがこの両条約が既に締結されたといつてもまだまだこれに反対する人々は無数にあり単独講和反対、日米軍事協定反対などの力なき民の声は大きな対政府闘争へのろしとなつて相当な基盤を敷くものと思われている。（也）

青年よ、自覚せよ

宗像女子講演

去る十七日（土）南校講堂で一二年生徒を集めて〝青年の不良化防止について〟と題して宗像正子女史の講演会が催された。戦後の青年のわきまえるべき道をキリスト教矯風会という指導者の立場から凡そ二時間にわたつて解かれたもので聴衆者も一応静粛に長時間を過した、講演内容は次の通り。

これからの日本を背負つて立つ青年達がでく小部分ではありますが、堕落しつつあるのは非常に残念に思つています。これらは戦後激変した世相の影響が大部分あるのでしようが、皆さんは若くそして良識があるのですから、酒や煙草の伴侶にならず健全な生活を続けて下さい。私の同窓の友人で悲惨な目にあつた例を知つていますそれは物質的にも裕福な家庭でしたがそこの良識ある息子が金のため私の友人であるその母と父とを殺害してしまつたのです。それは酒のなした技だつたのですが皆さんも道徳的にも自身のためにも常に規則正しい摂度ある生活を精神面にも物質面にも続けてもらいたいと思います。そしてそれが戦後のたいはいした祖国を担う青年の皆さんの唯一の役目だと信じて居ります。高校長を歴任、停年退職後小倉高校夜間部に講師として教壇に立たれておられた。享年五十九才。

高校に撮影所生る

兵庫高校映画研究部では、本年に入つてスクリーンクラブと兵庫映画プロダクションを設置し、スクリーンは機関紙ムービープレスを発行。プロダクションは、撮影機の使用研究を、京都大映の指導の下に、対神戸高校の野球映画を撮影したという。

▲去る十一月一日第三回文化祭が実施された。多彩なプログラムで期待されたが、さて幕を開けると余り良いとは御世辞でもいえない▲演技の方も感心出来なかつたが観衆の野次は、どうだろう▲四面の演劇評にもあるように豚の声とはよくいつたものだ、あれで高校生と自覚しているのだろうか▲まして本校生徒が一週間も二週間もかかつて本校文化祭のため、毎日努力しての成果を観衆諸君はどう見、感じたのだろうか▲如何に粗雑だつたとはいえ、われわれ同窓の諸君が熱演する中に下品な野次をとばすとは言語道断!!▲せつかくの演劇が興味半減したのも観衆諸君の責任が大いにある事は御存知だろうか▲これは文化祭だけではない、弁論大会でも然り!!壇上で熱弁する生徒諸君の身も考えてはどうか、いやな伝統が出来たものである▲学校当局もあきれた様で注意もしない有様だ、いわゆる〝さじを投げた〟の型だ▲以後厳重に注意してもらいたい。といつても右耳から入つて左耳へ抜けるのが真相らしいがこで是非左耳へ栓をしては▲苦言をもう一言▲最近校内に授業中のカラ返事や親友?に代返してもらつているのが多々見られる▲事実と見れば父兄、学校当局、一般社会の人々はどう見るだろう▲カラ返事で堂堂と教室を抜けるとは五衛門も舌をまわすだろう▲生徒諸君、これが高校生のプライドをもつた若松最高学府の生徒だろうか、たれも信用はすまいが真実は如何にせん▲学業成績が上昇しないのも当然至極だ、身から出たサビというものだ▲諸君の自覚をまつより方法はあるまい。

クリスマスプレゼントには
優美な組合文具セットを
魚重文具店
学生文具優良販売店
TEL 1045

校内総合世論調査

各學年共多い共學賛成

半数以上の能力別反対者

男女共学実施以来五ケ年を経過して学生も多方面にわたり活躍し現在の学校生活に対する希望も高まつてきた現今、本校調査部では賛成か反対かで論争のつきぬ男女共学の件、学生のプライドを示す制服の件等について全校一せいに総合世論調査を行つた。次はその主なものである

内容として〝男女共学について〟では賛成論が五十八%で理由として『男女互に競争心を生じ勉学の向上に役第つ』『異性に対する正しい理解ができる』などが多く反対論では『性格的に中性化する』『男女は本分が違うから』などが多かつた、〝将来の進路〟に対しては一、二年は進学が圧倒的だが三年生では五十五%であつた〝制服決定について〟は賛成論が圧倒的で男子は学生服、女子はスーツ上衣にギヤザスカートの服装が多かつた。次の〝能力別について〟に対して反対が五十九%で『学科だけ能力別がよい』が三十五%であつた。〝現在の学校生活は楽しいか〟では『楽しくない』が四十八%『どちらでもない』が十九%であつた。以下にその詳細について示してみると

一、男女共学について

1、共学に賛成（五十八%、一年二〇七、二年二一九、三年一九〇商業六五）

理由

(1) 男女互に競争心を生じ勉学の向上に役立つ（三十二%）

(2) 異性に対する正しい理解が出来る（三十%）

(3) 女子の社会的地位の向上に役立つ

(4) 共学により明朗活発となる（十一%）

(5) 男女同権であるから共学が必要である。（十一%）

(6) 性に対する正しい批判が出来る（二%）

2、共学に反対（四十二%（一年一四六、二年一二六、三年一四六商業一〇二）

理由

(1) 男女は本分が違うから（三十八%）

(2) 性格的に中性化す（三十五%）

(3) 風紀上よくない（十九%）

(4) 学力差および体力差が著しい（十%）

(5) 男子が暴力をふるうから（一%）

二、将来の進路について（四十%）

(1) 進学（三十四%）

(2) 就職（六%）

(3) 洋裁（六%）

(4) 家事（六%）

(5) その他（十三%）

三、制服の決定について

(1) 決めたらよい（七十八%）

(2) 決めないがよい（二十二%）

四、能力別について

(1) 能力別学級がよい（六%）

(2) 学科だけ能力別がよい（三十五%）

(3) 能力別でないがよい（五十九%）

等で注目される点が多かつた。

詩

月とヴアイオリンときみと
―報はれること少き愛する屋根裏部屋のヴアイオリニストS氏に―

赤星光

きみ　ほんとうに静かだね
きみのいのちとわたしのいのちと
ふれあつている
そのひびきが呀え呀えと聞えてくるようだね
窓をすこし開けようか
どうだい　ひつそりと
あたりいちめんのこの蒼い光は
なにかバツハのものでも弾いてくれないか
しみじみと
さやかなわたしの胸のここで
揺れ　動き　あふれ
こんな夜
さめざめと　むせび泣きたい程
ふかく　うつくしい
あのわたしの心から愛する曲を
きみ　そのゆみをとつて
わたしのために弾いてくれ給え

〝大体信用出來る新聞報道〟

学生自ら世論調査

高校や中学における新聞教育がさかんになり、社会科の教材として一般新聞が大いに利用されている折から最近の高校生や中学生は新聞の報道をどうみているか。と高校四百六十七名、中学五百一名について新聞に関する世論調査を行なつたが次のような統計が出ている。

一、新聞報道を信じますか。

△信用する　高校八九、中学一二△大体信用する　高校三一、中学三五二△あまり信用しない　高校三五、中学一五△信用しない　高校四、中学〇△分らない　高校四、中学二二

二、新聞は世論を反映していると思いますか。

△反映している　高校一三、中学一八〇△大体反映している　高校二四三、中学一三二△あまり反映していない　高校三九、中学一九一△反映していない　高校一三、中学二四△分らない　高校一二、中学五六

三、最近関心をもつたニュースをあげて下さい。

△朝鮮動乱　高校二五二、中学二二一△マ元帥解任　高校七三、中学四六△イラン石油問題　高校一四六、中学五四△対日講和条約　高校一四六、中学七三△国内問題　計二八一（政治）高校二五、中学一一（皇室）高校二〇、中学三七（社会）高校五五、中学一一五（スポーツ）高校二八、中学四〇△その他の国際問題　高校〇名、中学九名

四、新聞漫画で最もよかつたものをあげて下さい。

△サザエサン　高校一九〇、中学二七九△デンスケ　高校六九、中学七四△蠶先生　高校五三、中学七四△クリチヤン　高校二四、中学二六△ブーサン　高校二三、中学一九△その他　高校四一、中学二三

豪華な土俵入り

大相撲若松場所

昨年に引続いて横綱羽黒山、照国、さらに新しく加わつた東富士一行の東京大相撲が去る十一月十三、四日の二日間市役所前で盛大に行われた。二日目の千秋楽の日は各学校の生徒が場内をほとんど埋めつくす盛況のうちに午前九時ごろから幕下力士の血のにじむような猛練習が土俵一杯にくりひろげられた。幕下力士の練習がすんで本校生徒は横綱羽黒山などにいどみかかつて話にならなかつたが相撲部員は猛然とぶつかり幕下力士の西城山に松浦君は足取りという奇襲戦法に出て西城山をおどろかせ、一年の某君は土俵際で共倒れるという珍景が出て観衆をやんやといわせた午後は優美な三横綱の土俵入りなどもあつて午後四時半若松場所の幕を閉じた

羽黒山と練習する本校相撲部員

文芸

十一月も末、彼は一人山路をたどりながらこう弁解していた。漱石のように智に働らいたのでもなく、情にほだされたのでもない、唯今日のような小春日和の暖たかな太陽に誘惑され、周囲の紅葉に目を奪われて山登りに足を運ばせたことを……。山登りといえば文句もあるまい。大学への進学だ、ほら就職だとあせくいつてだるまのように机の前へ坐つたり、模擬試験に失敗したといつて身体中の血を逆流させたりしている今日このごろ、非人情の世界に想を求めるのも心の休養とばかり繰り出して来たのである。始めから半日つぶす覚悟で来ているのだからてくてく歩いていて単語帳を開く気にもならない。

あつち見こつち見して登つて行く、このあたりはまだ畠になつていて、肥の匂がしたりお百姓がいたりすると、まだ一人になつたような気がせずどんどん登つて行つた。（日本のファマーは全く勤勉努力家だの観を深めさせる程山はよく手入れされている。）肥の霧も下界に濃い山の色は秋の美しさに色どられてきた。斜面に当る陽光の和やかさ、草木の紅葉と彼は山の肌をなめるように眺め、味いうつとりとその美味に陶酔していた。

しかし山路が険しくなるにつれて足の疲れ、身体の怠慢から自ずと日常生活の厭味とか感情問題の処〝とが〟になつてくるのである。これでは山登りの主旨に反する（また級れも手伝つて）とばかりそこに掌と腰をおろした。雑木林の破れ間から下界の川が蛇のぬけ殻のようにひようひようと頼りなく連なり、工場の煙突の煙りも沢がにの泡くのようにはかない。別に詩的情操もなく感興に乗つてはいるがおいそれとまとまつた詩歌はでてこない。『山はよいなあ！』これが彼の唯一の山の讃美である。

矢張り勉強だ

文芸部　秋元貞雄

彼はふと恋人？…とにかく好きな人と一緒に来ていたら、という考えが起つたが先程の主旨に違反すると思つてやめてしまつた。大学へ進学を夢見たり、市街の美しい女性を横目で見たり、御馳走を食べたりするだけでは結構楽しいであつた。

忘却の領域へ立入つていることを自覚するが、それにもまして山の情趣は紗を忘却の世界へ幽閉するのであつた。彼はなおも上へ登つて行くとかすびしい犬の吠聲にぶつかつた。こんな山中に番小屋があるのだ。犬は苦手でないから近寄て行くと尾を屈んに振つて歓迎してくれた。しかし彼は不快なことを見てしまつた。犬の動作なのである。明らかにそれは性の衝動を示していた。たつた一匹の犬ところのセツクサルに彼の心は汚されたようだつた。彼は一杯の水を乞うて小屋に入つて行つた。暗い内部には二十歳前後の若者と三十五、六のふとつた女がねそべつて本を読んでいた。若者は相手が学生と判ると横柄な口をたたいた。二人とも好色的な面である。『何だい？』『共学だろ、アベツクちやねえのかウフフ』『良いのがいたら世話しなよ。』若者はこんな調子なのである。なぜ出された本も一目でエロ本と判つた。彼はほうほうの体で小屋を飛び出した。犬ところの本能を人は理性でいやした、が現実はいや非人情の世界においても人間は犬と同様に振舞つているのだ。振舞つた事実は？…彼の臆測は決定的だと信じた。そして犬ところの本能を満足させてやらない人間の虐待ぶりわがままも一緒に憤つた。

非人情の世界は思いがけない現実の様相を呈していた。彼はこんな単純な考えが世の中にいろんなものに対して大きな眼を見はらせた感じだつた。また一方世の習慣と人間の運命は（本能というか（一本道を進むがてれに逆行したトルストイを心から尊敬する情があふれて来るような矛盾した心の中であつた。懐疑的な人性を根底とする考えを捨て、人生を肯定していかなければ勉強はできないと彼自身の結論を下して、彼は山を下りた。

多い一年の図書利用者

貸出数も昨年の二倍

最近読書熱がますます高まつてきた、非常に喜ばしいことである。四月開館以来九月上旬まで開館日数にして百日間に延貸出図書数は五千七百冊、昨年度一ケ年の貸出数五千四百冊をはるかに上回るもので、一日平均七冊、昨年三千六冊、一昨年十冊と非常な勢いで、図書館発展の歴史を如実に物語つている。

なお利用者を比較して見ると、一年男子30%女子17%、二年男子21%女子18%、三年男子6%女子5%である。特に著しい変化は、昨年25%の利用率を持つた三年男子、同じく40%で最高利用率を保持していた三年女子である。毎年の例から見ると、二、一、三年の順で利用率が並ぶのが普通であるとはいえ三年生が南校舎で不便だというものの5%ではあまり少なすぎると思う。一方一年生の利用率が大なのは、中学校において読書教育が始められようとする気運の影響と思春期へのぞにある生徒の心理であると思われる。九月に入つてからの傾向に著しい変化というと、わずか十日間に、一千百冊を突破し、昨年九月の六二七冊に比べると約二倍、他の一ケ月分に相当するものである。これは読書の秋を前に、現代日本文学全集、世界文学全集、それと多少の文学書が購入されたことと、貸出法の簡易化によるものであると思われる。これは夏休みを利用し、年来の図書館早期完成の目標を達成するために、部員の協力によつて実施されたもので、ブツクポケツトあるいは現在の図書館の常識とさえいわれている。このブツクポケツトあるいは、帯出表を持つてくる忙さを無くしたことは言を待たないが、これに反して忙がしくなるのは部員である。現在二〇名の部員は、授業講習の合間や、貴重なクラブ活動の時間をさいて図書整理に追われている。ここで諸君にお願いしたいことは、図書の出入れに際し確実に元の位置に返してもらいたいこと、図書返却が遅れないこと、図書の取扱いを大切にすること、である。なお次の計画として図書館の拡張が考えられている。昨年四月、あの牢獄のような図書室から現在に移つて以来、図書数を相当量廃棄したにもかかわらず、その後の増加によつて図書数は現在六千二百余冊、『小倉北』『伝習館』の蔵書には及ばないがすでに書架は新刊書の入る余地はなくなつている。幸い元定時制教員室を書庫を拡張し一乃閲覧室を郷土室まで拡張しようという計画は学校からも許可がおりて、遅くとも春休までには実行される予定である。完成の暁には、收寄定員約百名、蔵書予定一万五千冊の図書館ができ名実共に諸君のための宝々たるものが創られるはずだ。諸君の後援を切に希望してペンを置かせてもらう。

（図書部員久保田記）

修学旅行は東京か

先日二年生全部とその父兄に対して修学旅行の件について世論調査を試みた、結果としては生徒も父兄も東京方面がよいというのが圧倒的である、しかし学校としてはまだ研究の余地があるので父兄生徒、職員の間で懇談会を予定している。今度の修学旅行が東京に決定すれば今までと違つて一応型破りなのでこれらの種討に当つては慎重さが望まれている。

二年男生徒K君の意見

旅行は三月の予定だそうだから東京は大変寒いと思うし、来年は受験で上京するので関西方面に賛成だ。

二年女生徒Mさんの意見

私は卒業するとあまり旅行もできないので想い出として東京に賛成します。

風物詩

下駄禁止論に一言

経済状態もよくなつた今日、本校でも学生制服問題が取上げられ第一に下駄廃止論が先生方より半強制的に決定されようとしている私はこれに対して一言いいたい。

〝高校生のプライドを持つて下駄ばきを止め、小倉高校も靴に統一され、東京も同様である〟といわれるが学生のプライドは服装からとは、はたしていえないと思う。靴をはいて登校するのも紳士の卵としていいかも知れない。が下駄をはくのを何故止めるのだろうか明治時代の青生はホーバの高下駄をもつて都大路を濶歩したし、旧高校生も自分等の象徴として高下駄に一種のプライドをさえ持つていたのである。といつて私は時代の流れは忘れてはいない。要は形式的にとらわれずともよいと思う社会に出ればリユーとした短靴をはく人もいるだろう。高下駄をはくのも高校時代で終りかも知れない。われわれも数年間はさなれた高下駄に離れるのは何となくさびしい感がないでもない、むしろ下駄の方が歩きやすいという生徒もいる。先生方もわれわれ生徒の意見も聞いてほしい、世論調査の方法もあるし一方的に決定してもらいたくないと思う。（XYZ）

諸君奮起せよ

北校舎の一年の某組の掃除を見ておどろいた。今まで汚なかつた廊下がさんぜんとして輝き足もすべるばかりにみがかれているのである。元来伝統的みたいにたれもが〝北校舎は汚いから掃除したつて同じだ〟という言葉がよく生徒が口走つている。しかしこのような話を見事否定してしまつたのである。みがけばきれいになるということを北校舎の諸君に見せつけたのである。その某組は毎日又力でみがいているそうだがあいう廊下をみがくのは容易ではないのだ。これらを教室等へもうつしてみがいてみよ北校舎はがぜん光を放つのだ。北校舎の諸君よあの一年生が何の気なしにみがいたのが北校舎の片隅に光を放つたのだ、諸君もこれにそつて教室を整頓し学校をみがいて頂きたい。（G）

雨漏りをなくせ

〝二年五組の雨もりは余りに激し過ぎる〟と近ごろ二年生の間に頻々と起る非難の声である。

私もその同意者だ。前夜雨が降ると翌日教室は泥水が一面に拡がつていて、まして雨の日等の勉強は机を隅に寄せて勉強しなければならない現状である。これは以前からなつているが未だに修理していないのだ、私は学校当局が一日も早く修理され、われわれが笑顔で勉強できるようにしてほしいものだ。（二年Y）

皆様の投稿歓迎します。原稿は返却致しません。

若戸親善スポーツ大会開かる

泥雨中に四校が轉戰

第一位、戸畑高校　第二位、若松高校

若戸親善のため、以前よりスポーツ対抗が計画されていたが今度具体的となり十一月十七日、十九日両日にわたり実施された。

折りからの雨で危ぶまれたが、強行実施され、陸競、籠球、排球、卓球、庭球の五種で戸畑高校が総合得点三五点で優勝、第二位若松高校三〇点、第三位戸畑中央高校第四位は北筑高校であるがこれは女子の部に出場者がいなかった。優勝得点は一種目五点、二位三点……となつている、以下は各競技の試合成績である

…球…戸畑高校、排…中央高校と男女二校に別れて行われた排球大会は先日来の雨のためコンディション悪く選手は相当の善戰であつたが男女共よく善戰した。男子の部においては一年が優勝、二、三年は練習不足かあまり振わず、女子の部は全学年共断然他校を圧して優勝した。以下その成績である。

男子の部

一年　若松1—0戸畑　優勝戰若松2—0戸畑　二年　若松0—2北筑　三位決定戰若松1—戸畑　三年　若松0—2戸畑　三位決定戰若松2—0中央　優勝校北筑

女子の部

一年若松2—0中央、優勝戰　若松2—0戸畑　二年　若松2—0戸畑、優勝戰若松2—0中央　三年　若松2—0中央　優勝戰若松2—0戸畑

—籠　球—

男子は戸畑高校、女子は戸畑中央高校で夫々行はれた。

試合は相次ぐ熱戰を展開、本校はむらがる強豪を次々にしりぞけ二年は惜しくも優勝をいつしたが、一、三年男女共に栄ある優勝をかち得現在及び将来の籠球部発展を益々確立せしめた

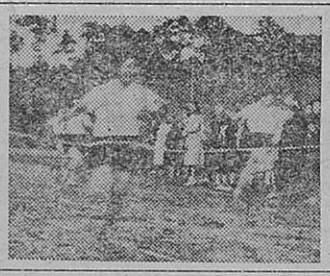
一年男子　本校27—12北築
本校17—7戸畑高
一年女子　本校5—1戸畑高
（後の二試合は不戰勝）
二年男子　本校1—不戰勝—北築
二年女子　本校20—24戸畑高
本校2—8戸畑中央
三年男子　本校5—20戸畑高
本校36—36戸畑高
本校22—23戸畑中央
三年女子　本校22—3戸畑中央
本校13—12戸畑高

—庭　球—

男子三年においては竹田、家令組が不戰勝、北筑を破り優勝戰で北筑の団体出場者、王子田—坂元組と顔を合せ五セット中二セットと三セット目を三—〇とリードしながらもあと一歩のファイトがたらずセットカウント三—二と負けてし優勝を逸した。二年では江崎—藤島組が北筑、中央、戸畑を破り優勝した。女子の一部ではリーグ戰が行なわれ二年丸山—村田組が中央、戸畑を破って優勝し五点を獲得した。一年江崎—伊藤組、三年林—中原組もそれぞれ善戰したが惜しくも破れた。これで男子の得点十点、女子五点で合計十五点を獲得した

—陸　上—

十七日当日は雨が降ったり止んだりの天候で実施を危ぶまれたが最悪のコンディションの中で強行された男子百米には一年三好君が二位、二年青柳君二位、三年和田君が三位で最先の良いスタートを切ったがフイルドの女子巾跳が振わずそれに加えて一年男子巾跳その他三種目に棄権し男子巾跳に二



年上甲君の五米五十三の輝かしい活躍も空しく、男子三位女子二位に おさまった。なお本大会のピカ一戸畑高校の百米高谷君は高校日本記録十秒九のスピードに乗せて巾跳に六米三十五を跳んだのは見事だつた。

—卓　球—

硬式卓球大会は第一日目（十七日）に戸畑高校においてリーグ戰で行われた。本校から各学年男女あわせて四名づつ出場し選手は三年女子新谷さんを初め二年女子笹山さんなど女子の奮戰が注目された、男子の部では一、二、三年とも全敗を喫しわずかに一年が優勝戰まで出場したのみであつた。女子の部では二年の笹山三年の新谷の両選手が優勝の覇権を握り一年も優勝戰で惜敗するなど女子の活躍は目ざましいものがあつた。

河野君三年栄冠を獲得

近県高校弁論大会に出場

九州大学第二分校学生自治会主催近県高校弁論大会が十一月二十五日明善高校講堂で約八百人の聽集を前に午前九時半より行なわれた。参加人員は福岡を主とする佐賀、熊本、長崎より集まつた、五十六人で講和問題を主とする論旨が多く本校河野憲二郎君も『講和条約は真の平和条約たり得るか』という論題で熱弁をふるい、十一月十一日山田高校主催で行なわれた近県弁論大会に一、二位を獲得した久留米商の弁士を向うにまわし五〇〇点満点中四五〇点で一位となり晴れの栄冠を勝ち得た。以下は同君の感想である。

今回催された大会についてその論点が時世を背景として再軍備問題講和問題をとり扱つたものが多かつた事は私自身新らしい立場で各々の意見を聞いて大いに勉強になつた事と喜んでいると同時に学生がかくまで多くこの問題について真剣である事は彼等が如何に平和の問題に真剣であるかという事を物語つていると思います。尚私が如き者がはからずも優勝出来ました事は一重に諸君の御声援にあづかつた事を感謝し、これを機会に古い殻を脱却し、新らしい弁論世界の動きにあくまで平和を希求する弁論に対して今一度深く研究し努力してみたいと思います。

第四回、駅伝　県予選行わる

今年も定例の全国駅伝大会福岡県予選は第四回を迎え県教育委員会、県高校体連主催、西日本新聞社後援のもと十一月二十三日、平和台—糸島間往復五十七キロコースで参加校三十八校が前夜からの降雨をついて挙行され、昨年三位の筑紫野高校が三時間十四分五十秒で優勝した。昨年優勝校の本校は昨年からの伊藤、松尾、三宅の古豪を加え、新鋭の平山、山下等のメムバーで期待されたが、ホープ田中君（二年）が負傷のため欠場し敗因を作つたことは惜しまれる。試合はスタート伊藤君が三位で上位にくい下つて行つたが、二区平重君は八位に下り、三区三宅君は十一位、四区山下君は十八位とこの区間、走者不調ですつと下り優勝の望みは断たれた。しかし五区松尾君は力走、十六位に進出アンカー平山君は十三位と頑張つたが時すでにおそく、予想を裏ぎつて十三位にあまんじた。

ラグビー善戰　空しく敗る

—対八幡高—

秋も終りに近ずきウインタースポーツの華ラグビーのシーズンを向えたが、本校対八幡高校のラグビー試合は十一月十一日折から好天気にめぐまれ午後一時小倉中央高校グラウンドにおいて行われた前半両軍必死の奮戰で手にあせをにぎる好場面を展開三対三のタイスコアーのまま後半を迎えた。

後半に入るや八幡高は本校選手前半のつかれに乘じ一挙三点をあげ、これに奮起した本校必死の追撃も空しく、結局六対三のスコアで八幡高に敗れた。

全國弁論大会に出場す

第十三位の沢野君

十一月十一日、大坂八尾高校主催、全国弁論大会が行われた。本校では弁論部沢野良孝君が先月河野憲二郎君の奈良大会出場に次いで『国民の願望は唯一人のもの』という論題で原稿審査に九州でただ二人のパスとなつた。大会は全国より四六人の弁士によつて熱弁がくりひろげられ沢野君は第十三位となつた。審査の結果やはり地元が強く滋賀県の八幡高校が優勝した。次に沢野君に大会場の感想を聞いてみた。

十一月五日に原稿審査にパスした通知がきた時嬉しいことはなかつた。かねてから願つていた全国大会出場の欲望が違せられなんだが落かなつたが、汽車の中、宿泊所でも何回も練習をしました。その大会に出場した。今日こそ河野君の仇討ちするつもりで壇上に立ち大いに頑張つたが入賞できず残念でたまらなかつたが、しかしこの大きな大会に出て弁論をさせていただけただけでも若高の皆さんに深く感謝いたします。

なお、同じく若松弁論部武田力馬君は大津大会の原稿審査の結果パスした通知が大会当日にきたので出場することができなかつた

制服論には大賛成

松岡若松市署長

カラン、カランと高下駄の音が重々しい室内に響いて気がひける。如何にわれらの民主警察といつてもあまり気持の良いものではない。係の人に訪意を告げると気持よく案内されていかにも署長室らしいいかめしい部屋へ通された。でつぷりとした見るからにおうような人で笑顔で迎えられ、記者がテーブルにつくやいなや『最近の最少年の犯罪について』と問うと軽くうなずかれ『戰後二十才以下は青少年法として取り扱われる関係上犯罪の発生率が非常に多く犯罪年齢も低下して小学生までが含まれている、戰前は15歳以下はほとんど犯罪がなかつたが……』と残念そうに言葉をにごされ更に『これらは戰後社会環境が一変したことが最大の原因であるが、彼等は近ごろ個人的でなく集団性をおよんできている』と答えられ真剣な面持を記者に向けられると、記者も大いに責任を痛感する。『男女関係について』と第二問をあびせると『校外においてある程度男女の区別があることを認識し校外における同級生との交際は慎重にすべき問題で、深夜よく街頭でかい合する件が起つているがどうかと思う』と意味ありげにお答えになる

『現在学校で制服、下駄の件が問題になつているがこれについて』と第三問『今日統制経済ではずれて靴などが容易に手に入るので学生は学生らしく制服を定め靴などはいた方が第三者の目から見てよい』と署長さんも大賛成のようだ。今度は署長さんから持ち出される『生徒個人としては秩序ということを特にお考えを願いたい、秩序のない社会はいわゆる亡国に傾くものである』と説々と語られ更に『最近の学生は気にいらぬことはすべて封建性だと言うがこれは反省する必要があるね』と痛烈な御意見をされた。市の大取締役をやつておられると教育の面においても相当に年功者だ。そこで記者もそぞろ別れのあいさつをいつて早々にお前を引きさがつた次第。

九州高校野球　予選決勝に惜敗す

去る十月二十七日より開始された第九回九州高校野球福岡県北部予選は小倉市豊築園球場でその火蓋を切り、まず若松高校は京都高校と対戰、9対1で撃くしりぞけたつづいて十一月三日、強豪小倉中央と争つたがこれもまた5対4と接戰の末破り決勝戰にのぞんだが東筑に一日の長あり延長十五回の末3対2で惜敗した。以下その成績である

十月二十七日

若松	2	0	2	0	0	2	0	0	3										
京都	0	0	0	0	1	0	0	0	0										
若松吉田—立石、京都島津—竹本																		1	9

十一月三日

小倉中央	1	0	0	1	0	1	0	0	1										
若松	0	0	0	0	1	0	0	0	4										
																		5	4

十一月四日

東筑　3—2　若松（延長十五回）

中央宮原—長野、若松吉田—立石

学園スナップ

文化祭余聞

文化祭当日、日ごろA君へ仲の悪いB君今日は相手を凹ませてやろうと無理をして五十円のすし券を買い試食会場におさまつていたがやがて美しい女生徒が料理を運んで来た。丁度そのとき廊下を通りかかつたA君、それみよがしに女生徒に話しかけたりするB君を見て口惜しがつたことといつたら

むしやりむしやりとやりながらA君を見てにやりとしていたB君もB君ですがそれをみて口惜しがるA君もA君ですよまア。

和製ドン・ファンにはへき易

若高一ドン・ファンの異名あるH君その道では相当自信？のある猛者だが先ごろ来たエロールフリンの『ドンファンの冒険』には舌をまきさすがは文字通りドン・ファンだと秘かに畏敬していたが近日来た『源氏物語』には前以上に全くへこたれて『ブーフー、上には上があるものだヨ』とは皆さん方も御共鳴ですか？

今日だけは

気にくわない時間があると決まつて扱けるサボリの常習犯O君今日は昼切りだと聞くとさあ二時間目からドロンしようといつもの手を出しにかかつたがよくきけば先生方の断食までなさつて県と闘争している同種の手の早期退序ときいてホロリさすがのO君も今日だけはマジメだつたのはゴモツトモ

時代が変れば

修猷館高でクラブ承認としボクシングクラブが毎日練習しているが、この間から数人の女生徒が熱心に見ていたが堪りかねて素手でワン、ツウ、スリーと掛声勇ましく、パチン、パチンとやり出した男子の面々は顔負けという程である。この世の中もおそろしくなつたものだ。（天商新聞部より）

末恐しい女性達

昼食時間がくると、女生徒がホームルームの教室を独占するので内気で心臓の弱い？男生徒は運動場の端に出てお茶もなく運動場のゴミに吹かれながら冷い弁当をパクついている。（海南高校より）

良質、低廉、清潔といつも皆様にお馴染みの

アベ金物店は

商品のサービスに心から盡して居ります

金具、金物の御用なら是非！

本町四丁目
電話一一〇七番

"地獄への道"
タイロン・パウワー主演

総天然色映画
"懐しのスワニー"
ドン・アメチー
アル・ジョルスン主演
アンドレア・リーズ

アメリカ映画豪華二本立！
一日より惠比須祭特別興行
乞御期待！
☆毎映☆

"黒水仙"
デボラ・カー
ジーン・シモンズ　主演

十二日より一週間、秀映の放つイギリス映画の巨篇！

同時上映
"命美わし"
三国連太郎
淡島千景　主演
桂木洋子

若松　秀映劇場

…CHAMPION…
"チャンピオン"
カーク・ダグラス　主演

飽くなき先達と愛慾にすべてを灼きつくした覇者の悲劇！
颯爽と登場したスタンリー・クレイマーの第一弾作品！

"月から来た男"　同時上映
長谷川一夫・水戸光子主演
佐伯幸三監督の颯爽時代劇

二日封切
若松　旭座

成功した展示會

反省すべき観衆のヤジ

第二回文化祭開かる

恒例の文化祭は好天に恵まれた去る十一月一日、音楽、演劇、校友会各部の展示の各発表会が南校で開催された。

先づ南校講堂では午前に音楽発表会、午後に演劇発表会と昨年にひきつづいてプログラムに多彩さはなかつたが相当、部分的には充実した面が見られた、音楽会では男子も合唱に参加したが男女共練習不足が目立ち独唱と合唱だけの発表だつたのに粗雑な演技が多々見られたのは遺憾である。只特別出演した締由で観衆の眼を引かせたのがますますという所であろう。なお、先日完成した校歌の発表も同時に行われ音楽部の先輩で全先徒一つたが、練習期間の外見が目につく。結局、脚本の選択をあやまつたというべきであろう。蜂の演技が注目をあびた。

"私は街を愛している"梅田晴夫のラジオドラマを脚色したものらしいが、そのための無理が、やはり感じられる。例えばレコード音楽の乱用、そのために台詞はたびたび打消された。それにしても熱演しているはずの乞食の演技に田舎者の嘆みを感じたのは、一考を要する。また同時に行われた展示会には生物、山岳、図画、書道写真、物理、電気、家庭等の各部が参加し人目を惹いたが特に電気家庭クラブの生花、お茶、洋裁などが一般に好評だつたかくして一日の文化祭は大体好評裡に終了した高らかに声を合せ、菊薫る文化の日を前に一花を添えた。

続いて昼食後演劇の部に移つたが"花園の幻想""おふくろ"私は街を愛している"と一様に失敗で僅かに観客間で好評を受けたものは"おふくろ"位のものであつた。いづれも脚本、照明、セリフ等改善すべき点が多く見られた。一年の英語劇は会話法からいつても問題にならず共に来年を期待して精一杯の努力が望まれる。

△演劇寸評

"おふくろ"昭和八年、田中千禾夫に依つて書かれた脚本だが、その古さを感じさせない。プレツシユな印象が豚の泣声の如き、全くインテリゼンスの感じられぬヤジで生かせなかつたのは残念だつた宗像夫人の近来にない好演技と舞台装置の端正さとが、この劇でのせめてもの拾いものであつた。

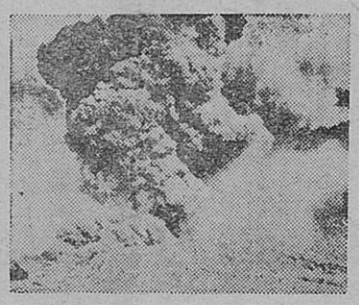
"花園の幻想"諷刺劇のむつかしさを、今更の様に感じさせた劇であつた。豚の泣声しか出し得ない観客には最初から、この脚本は無理な話だし"おふくろ"もそうだ

山肌を吹き上げる阿蘇を登山

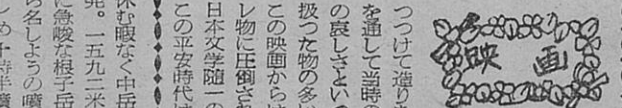
地理部員　中石　武郎

地理生物共同の阿蘇調査紀行は去る十一月二日より三日間の短期間の中に無事その目的を達した。以下はその紀行記である。

一日夜出発、車中にて一夜を明かす。熊本より豐肥線に乗換え坊中に向かう。この火山は箱根火山と共にわが国における二重式火山の典型的なもので同火口の外輪山は標高千米内外の変度を有し南北二㌔、東西一八㌔の直径に及びその規模の大なる事世界に比類がない。しかるにその噴出量の莫大なため内部に広大な空洞を生じその質量にたえかねて沈降しかつ急激な断層に刺激されて奇逃の大陥没（カルデラ）を生じたのである。その昔この膨大なカルデラ噴火口には現在の箱根の如き多量の水をたたえていたが、これが外輪山の一部をおし破つて熊本平野を沖積し有明海に注いだのである。七時四十分、坊中



出発。一五九二米の最高峰高岳と東に急峻な根子岳を左手に仰ぎながら名しようの噴出した岩肌をふみしめ十時半噴火口到着山肌を吹き上げて来る風が強制的な上昇気流となつて噴煙と共に多くの雲を形成している第二紀の火山活動がこのカルデラ中に起つて出現したのが中岳、高岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳等のいわゆる阿蘇五岳である。中でも特に中岳は日本



源氏物語

世界最古最大の長篇小説である源氏物語五十四帖のうち今度映画化されたのは最初の桐壺の巻から大体澪標の巻まで源氏を巡る女性のうち桐壺、藤壺、紫、弘徽殿女御、葵、朧月夜、淡路（これは原作には存在しない女性で、原作の明石の上と女三宮の性格と事件をくつつけて造りあげた人物）等源氏の青春を通して当時の宮廷の腐敗と宿命と人間の哀しさといつたものを描いている。複雑な人間心理人間性を取扱つた物の多い近代映画にしては物足りないものを感じさせるがこの映画からは思想性を期待するのは無理でむしろ外国物、アプレ物に圧倒され勝な映画市場に映画化に困難な民族の誇りとする日本文学随一の古典を製作したという点に着眼すべきであろう。この平安時代は藤原氏の最盛を極めた時代で貴族が奢を尽していのであるが原作にはないこれを映画では女官達が炎上する市街を遠望して騒ぐ場面となつているが、そういう時代相を入れた面まで原作にはないこれを映画では女官達が炎上する市街を遠望して騒ぐ場面となつているが、そういう時代相を入れた面まで原作には存在しない女性で、原作の明石の上と女三宮の性格と事件をくつつけて造りあげた人物）等源氏の青春を通して当時の宮廷の腐敗と宿命と人間の哀しさといつたものを描いている。複雑な人間心理人間性を取扱つた物の多い近代映画にしては物足りないものを感じさせるがこの映画からは思想性を期待するのは無理でむしろ外国物、アプレ物に圧倒され勝な映画市場に映画化に困難な民族の誇りとする日本文学随一の古典を製作したという点に着眼すべきであろう。この平安時代は藤原氏の最盛を極めた時代で貴族が奢を尽していの火山の内でも最も活動の盛んなものである。いわゆる大体一〇〇年から一二五年ごとに大噴火をしている。その際多量の火山灰を降らすのが特徴でこれを『よな』という。遠く九重の雄姿を望みながら頂上の麓さにふるえ上つた一行は烏帽子岳のふもとを縫つて地獄に下りてここに一泊、白川第一発電所を望み、波野原を経て、大阿蘇火山を後にしたのであつた。（写真は阿蘇山の大火口）

聖家族

原作　堀辰雄

この作品集には彼の最も初期の作品が收められている。

彼独特の繊細なタツチによつて描かれた『聖家族』を中心に十二編のエツセイと詩三編から成り彼の作品集中最も注目されているものである。この中で『ルウベンスの偽画』は病気のためある避暑地に療養に来ている主人公の、身辺に起る避暑地特有の上品なロマンス、彼はあるドイツ人らしい娘に心を惹かれた。その小径には彼女きりしか歩いていない。彼は彼女に声をかけようとして何故か躊躇した。すると彼は急に変な気持になりだした。彼は自分の口がコルクで栓をされているように感じる彼女は庭園に入つていつた。しかたなしに彼はその小径を行つたり来たりした、彼女はまだ庭園にいる。

この主人公は堀辰雄自身であるうと思われる。美しい文章である（角川書店）

海の沈黙

原作　ヴエルコール
訳　河野与一
加藤周一

一九四〇年六月フランスがナチの軍隊に占領され狂暴な支配の下に伝統の文化と自由が蹂躙された時フランスの解放に大きな力となつた『深夜叢書』をひそかに計画し出版した作家である。『海の沈黙』は主人公である私がこの部室に入つてくる。『いま私にはフランスが必要です。しかし私の求めていることは沢山あります。私はフランスが自分を迎えてくれることを求めております。フランスにいることは旅行者にせよ征服者にしろ外国人に違いない。そうしていてフランスは何一つ与えない。フランスから何も得られないからですその富、その高い富は征服するわけには行きません。それと乳房から飲まなければいけません。フランスは母親のような感動と人情で乳房を差し出してくれねければなりません……

ヴエルコールの書いたのはロマンではない。『海の沈黙』も『星への歩み』も、話り手の『私が物語る』であつて本来の意味の長編小説ではない。抵抗文学としての最大の作品であろう。（岩波現代叢書）

星への歩み

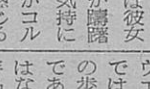
原作　ヴエルコール
訳　河野与一
加藤周一

一九四〇年六月フランスがナチの軍隊に占領され狂暴な支配の下

五百の若人力走

校内マラソン大会

絶好の運動コンデイシヨンにめぐまれた十一月九日、年中行事のマラソン大会が例年どおり若松駅発二島駅折返し若松惠比須神社ゴールのコースで行われた。まず学校長のあいさつに引続き九時十五分一年生より出発した。折返し地点では三年伊藤、二年平山、両君が三番三年平重君を約百五十米引離し二十四分



力走四番に若干一年の岩田君が入つた。折返し藤木では伊藤、平山が同走、三百米離れて平重、続いて山下、小田、田村、岩田がせり合つた。ゴール附近で老巧伊藤はラストスパートで平山を七十米も引き離し三十八分三十二秒五の新記録でゴールイン。二着平山、三着平重の順となり七位十位にそれぞれ一年が入り組対抗では予想を破つて一年が優勝し、三位、五位、七位に位したことは将来の若高マラソン会に大きな希望をなげかけている。

クラス順位次の通り。

一位	一ノ四	二位	二ノ商
三位	一ノB	四位	二ノ五
五位	一ノ三		

編集後記

二学期第二回の十六号は今回無事発刊されましたが日数が遅れたことを深謝します。

△△△

二面の文芸欄、台風圏は諸君の作品なりご意見を聞く欄として設けてありますのでどしどしご遠慮なく投稿下さい。観迎します。

△△△

次号は今年度最後の号として卒業並びに入試等、身近な問題を取上げ座談会も計画しています。

学生と文化

"人間的"とは

本校教官　二十二　直

戦後よく"人間"または"人間的"という言葉がよく用いられている。この文字が特に用いられるのは如何なる要求からであろうかこの真意がよく諒解されないとあるいは誤まるようなことになるかも知れない。"人間"あるいは"人間的"ということを浪漫的情意中心の人生観であるかのように考えている者がいるならばそれは大いに考えなければならないと思う若い時代は二度と来ない、おれ達は人間だ、大いに遊べとでも考えておるなら大へんな過誤であるといわなければならない。今ここで過去のわが国の歴史における人間性の自覚の一頁をつくつたともいえる江戸時代を回顧して見ようと思う。江戸時代の人々の生活、思想の中心は現世主義であつて儒教を中心として組立てられた政治主義の政策は生活上の形式を整理し秩序を与える効果をもたらした。しかしかかる儒教中心の政治主義というものが結果として安価な現実謳歌の声を蔑ろにしたにすぎなかつた。現世的思想が人々の生活をして表面的刹那的にならしめたのは当然ともいえる。

享楽に満足しようとする生き方は当時一般の生活態度であつた。このことについて西鶴の日本永代蔵（四）に『たとえば万貫持たればとて老後までその身をつかい気をてらして世を渡る人生は夢の世とはならず何の益あらず』と述べている。

以上の観点は主として町人生活よりの見方ではあるしまた江戸各時代によりそれぞれ異つた所の特色を持つが一般的に見て行けば大体以上の点が考えられる。しかしながら一面において人々が（特に町人）人間的自覚を持つて来たことである。封建制度は極端に人間の個性発展を阻害したのであるがそのからを破つて行かんとする精神が彼らの中に見出される。所で前にもどつて"人間"または"人間的"というこの文字が強調せられる根源は時代の切実な要求からである。最も厳粛な意味のものである。

今度の戦争の現実に直面して過去の因襲と不当な権力への盲従に対する自覚とそして余りに"非人間的"な生活に陥つた反省からの表現であるといわねばならない。

すなわち正しい"人間性"の復活に対する要請である。ブルクヘルトの語を借りていえば『人間の全内容を発見してこれを白日のもとにばくろせん』とする努力の方向を示すものであるといえる。

"人間"というのは"動物"に対する語であることは明らかである故に徒らに情熱を本能に任せて浪費するのが"人間"であつてはならないと思う。『生の肯定』はいいんだがそれは"人間的"『生の肯定』であつて"動物的"『生の肯定』であつてはならないことは当然であるといわねばならない遊ぶことも人生にはたしかに必要な一面ではあるが、しかしながらよく吟味された内容と規律とを欠くならば人生活動の楽とならずして却つて時間とエネルギーの浪費となることは明白であろう。同じ水をのんでも牛はそれを乳とし蛇はそれを毒にすることを大いに考えて見る必要があるのではないだろうか。

プロタグラスは『人間は万物の尺度なり』といつたがこの語は当時の人々の注意を喚起したのではあるがしかしながら彼の哲学がいぎろんにおちいり真理を把握しえず情熱の自由奔放な伸展を要求するに至つたそして遂に道徳思想の堕落となり『人間』に出発し『非人間』に悲しきゴールインした。

恵比須祭・正月用品のお買物は是非市内一流の店へ

信用をモットーとする皆様の
平石陶土器店は
寒を向え、火鉢、炉達等の冬物陶土器、他正月用品各種をとり揃えて皆様の御来店をお待ちしています
大井戸通一丁目

=家具=
タンス、水屋、鏡台、應接台、花嫁道具一式
建具既製品一式
他在庫品豊富
山口家具店
市内大井通バス停留所前

迅速、安値、正確を誇る中川通りの
香川カメラ店
△カメラ用品ならなんでも……
△市内一流の技術のある信用店
中川通派出所前
一九五二年度の貴方の初姿を一枚いかが

ふとん、座ぶとん、毛布の御用意は
今年も
板垣で！
古い老舗、新しい品
板垣ふとん店
若松市本町四丁目　電話一七七番
その他の恵比須祭正月用品お買い求めの際は是非当店へ！